

第2章 立地適正化の基本的な方針

1 都市づくりの考え方

忠岡町都市計画マスタープランでは、持続的発展が可能な都市づくりを推進するため、「住みたいと選ばれるまち 住み続けたいくなるまち 愛着と誇りを持てるまち ただおか」をまちづくりの将来像として、地域の特性や都市構造を活かしてまちの魅力を一層高める【攻めのまちづくり】と、現状のコンパクトな市街地やアメニティ（住み心地）を堅持する【守りのまちづくり】を視点に、都市づくりの目標を設定しています。

また、住民・事業者・行政の連携のもとに、都市づくりの目標の実現を目指すものとしています。

【まちづくりの将来像】

住みたいと選ばれるまち 住み続けたいくなるまち
愛着と誇りを持てるまち ただおか

【都市づくりの目標】

- | | | |
|-------------------------|-------|-------|
| ① コンパクト・プラス・ネットワークの形成 | 攻めの視点 | 守りの視点 |
| ② 生活環境の改善や安全・安心の確保 | | 守りの視点 |
| ③ 町の魅力の更なる向上と都市環境の保全・創造 | 攻めの視点 | |

2 立地適正化のターゲット

立地適正化のターゲットは、立地適正化計画の目的と対象を明確化し、効果的な施策を実施する「戦略」の基本方針とも言えるものです。

本町では、都市構造上の課題を踏まえ、人口減少社会においても都市の活力を維持・向上していくことを目的に、特に「子育て世代」を主な対象とした移住・定住を促進するための取組を講じることで、人口減少をはじめとする都市構造上の課題の解決を目指し、「子育て世代」以外の多様な世代にも選ばれるまちを実現します。

立地適正化のターゲットを

「子育て世代」と設定する

3 立地適正化の基本的な方針

子育て世代に選ばれる、住み続けたい都市づくりを進めていくためには、居住・都市機能・交通の視点で各種施策に取り組む必要があります。立地適正化計画で目指す基本的な方針については、以下の3つの視点を基に設定します。

課題解決に向けた考え方（3つの視点）

【居住の視点】

- レクリエーション機能や防災機能を有する空間を確保するなど、安全で快適な定住魅力の向上
- 空き家や空き地の増加に対応した都市づくり
- 子育てのフィールドとして選ばれる都市づくり
- 居住環境と工業等の操業環境の両立
- みどりや景観に配慮した居住環境の形成

【都市機能の視点】

- 鉄道駅を中心とした都市施設の誘導
- 移住・定住の決め手となる施設の適正配置
- 町外からの目的地となり得る既存都市施設の有効活用や魅力発信
- 民間活力と連携した魅力ある施設整備
- 財政の平準化を見据えた計画的な施設整備

【交通の視点】

- 鉄道駅を中心とした利便性の高い交通体系の形成
- 交通弱者の増大に対応した都市づくり
- 徒歩や自転車、目的となる施設へと安全にアクセスできるウォーカブルな空間の形成
- 町外から訪れやすい交通環境の形成



立地適正化の基本的な方針

I. 定住魅力の向上

良好な住宅地の保全に加え、レクリエーション機能や防災機能を有する空間を確保するなど、安全で快適な定住魅力の向上により、子育て世代を中心に移住・定住を促進します。

II. 拠点機能の強化

中心拠点である「忠岡駅周辺」においては、公民連携による効果的な整備等により、商業、教育・文化、子育て支援施設などを充実し拠点機能を強化するとともに、泉州地域における都市機能の連携強化や機能分担に取り組みます。また、「忠岡駅周辺」では、誰もが歩いて暮らせて、町外から訪れやすい環境を整備します。

III. 移動しやすい交通環境の確保

公共交通の維持、充実や徒歩・自転車等による快適な通行空間を確保するなど、広域的な利用を含め、子どもと母親や高齢者等を中心に買い物や通勤通学、通院等で移動しやすいウォーカブルな環境を整えることにより、外出機会を増やし住民の健康の保持・増進に努めます。